

令和元年度 「地域学校協働活動」 実践事例集



令和元年度「地域学校協働活動」実践事例集 もくじ

■事例集の発行にあたって

■各市町村における実践事例

01 函館市 (渡島管内) 学校支援活動／地域課題解決学習

02 標津町 (根室管内) 学校支援活動

03 壮瞥町 (胆振管内) 地域課題解決学習

04 士別市 (上川管内) 学校支援活動／地域課題解決学習／地域人材育成

05 神恵内村 (後志管内) 地域課題解決学習／地域人材育成

06 江差町 (檜山管内) 地域人材育成

07 紋別市 (林-湧管内) 子ども未来塾

08 大樹町 (十勝管内) 子ども未来塾

09 北広島市 (石狩管内) 放課後子供教室

10 礼文町 (宗谷管内) 放課後子供教室



事例集の発行にあたって

近年、社会環境の急速かつ大きな変化や、人々の意識や価値観の多様化等に伴い、将来への予測が困難な状況にあっても、志を高く持ち、持続可能な未来を創り出すために必要な「生きる力」を、子どもたちに確実に育むことが求められております。

このような中、令和2年度からは、小学校より順次、新しい学習指導要領による教育活動が本格実施され、「『社会に開かれた教育課程』の実現」を目指し、「地域とともにある学校づくり」が進められます。

道内においては、「地域とともにある学校づくり」の一翼を担う、学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールを導入する市町村は確実に増加しており、各学校の実情に応じた様々な実践が展開されております。

一方、地域社会においては、地域の伝統行事等の担い手の減少、人と人とのつながりの希薄化による社会的孤立の拡大など、様々な課題に直面する中、子どもに関わる活動への地域住民の参加や、子どもたちが地域住民と共に地域課題を解決したり、地域の行事に参画したりして共に地域づくりに関わる「地域学校協働活動」が、学校支援活動を含め、全ての市町村で展開されております。

道教委では、コミュニティ・スクールとともに、「地域学校協働活動」がより一層効果的に推進され、児童生徒はもとより、各地域の活性化に資することを願い、道内各地の特色を生かした取組を実践事例集として、取りまとめました。

各市町村教育委員会や地域学校協働活動関係者の皆様におかれましては、本事例集の取組を、地域の実情にあった内容に再構築するなど、御活用いただければ幸いです。

最後に、本事例集の作成にあたりまして、関係市町村教育委員会の皆様の多大なる御協力をいただきましたことに、心から感謝を申し上げます。

令和2年3月

北海道教育庁学校教育局義務教育課地域連携担当課長 濱 中 昌 志

多世代交流を目指した「七夕プロジェクト」の取組

函館市 渡島管内

【活動名】

地域学校協働活動「七夕プロジェクト」

【関係する学校】

南本通小学校



七夕の様子

行っている活動の区分				
学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	子ども未来塾	放課後子供教室
○	○	○	—	○

地域学校協働活動に係る基本データ	学校支援活動	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
		○	—	157	—	—
その他の教育支援活動	○	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
		0	21	90	H30	無
子ども未来塾	—	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
		—	—	—	—	—
放課後子供教室	○	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
		0	29	33	H18	有
		実施場所		学習支援	児童クラブとの連携	
学校運営協議会生徒(コミュニティ・スクール)	○	南本通小学校		無	連携型	
		導入日		委員数	児童生徒数	学級数
		H31年4月1日		9	195	9

1 活動の概要

■函館市は、令和元年度で幼稚園から高等学校までのすべての学校（65校・1園）がコミュニティ・スクールとなり、各学校の特色を活かしながら地域学校協働活動を推進している。

■函館の伝統行事である「七夕まつり」を媒体として、学校は「地域の一員としての意識や自覚を高める」等、地域は「地域活性化と安心して暮らせるまちづくり」等のねらいを共有して実施した。

2 特徴的な活動内容

- 学校運営協議会制度導入後最初の「地域学校協働活動」と位置付け、学校・町会・PTA・包括支援センターで「七夕プロジェクト実行委員会」を組織。CS 独自に地域連携コーディネーターを依頼し、実施した。
- 小学校1年生は地域の方と七夕飾りをつくる「七夕交流会」を、5・6年生は「インタビュー」「マップづくり」等を教育課程に位置付けて実施したことにより、学校の教育活動との関連を図りながら推進した。
- 子どもたちは、事業に賛同を得た家をスタンプラリー方式で回り、町会役員やPTAが、子どもたちの安全管理と誘導等を行った。



実行委員会の様子

3 事業の成果

- 学校運営協議会制度導入及び町会と連携したことにより、前年度に比べて参加協力する家が倍増した（56軒）。
- 七夕スタンプラリー参加児童数は163名（参加率84%）。全ての学年の子どもたちが、数多く参加した。
- コーディネーターはPTA会長等3名が担い、情報共有や役割分担を円滑に行うことができた。
- 「クリーン作戦」等、他の活動も広がり、子ども、保護者、地域の方々、教職員との顔の見えるつながりが生まれた。

「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能の充実

■実行委員会を組織したことで、効率よく情報共有が可能となり、それぞれの組織の役割分担が明確になった。

活動の継続、発展、推進に向けての取組

■学校の教育的ニーズと地域課題をうまくマッチさせた。
■PTA 組織が地域学校協働活動と連携しやすくなるよう体制を見直した。

地域の特色を生かした活動

■既に地域で実施している包括支援センターの「地域ケア会議」や町会の「防災訓練」への参画を通して、連携を深めた。

地域資源を生かしつつ今日的な問題の支援も模索する

標津町 根室管内

【活動名】

学校支援活動

【関係する学校】

標津小中・川北小中 他



地域の「先生」から、よさこいを教わる様子

行っている活動の区分				
学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	子ども未来塾	放課後子供教室
○	○	○	—	—

地域学校協働活動に係る基本データ	学校支援活動	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
		○	2	24	0	H29
	その他の教育支援活動	—	—	—	—	—
	子ども未来塾	—	—	—	—	—
	放課後子供教室	—	—	—	—	—
—		—	—	—	—	—
	学校運営協議会生徒（コミュニティ・スクール）	導入日		委員数	児童生徒数	学級数
○		標津地区 H29.8.24	13	261	16	
	川北地区 H29.8.23	13	139	14		

1 活動の概要

■ 標津町では、町内全学校園がコミュニティ・スクールとなっており、「標津地区」・「川北地区」の2地区に活動を集約している。

■ 各地区のコミュニティ・スクールでは、共通した取組のほか、市街地中心の「標津地区」では新たな取組を模索した学校支援を、「川北地区」では代々受け継がれてきた活動を生かした学校支援を中心に、地域学校協働活動を展開している。

2 特徴的な活動内容

- 親子学びの体験教室「ワイワイランド」を、それぞれの地区に会場を設け、共通の日程で開催。標津町PTA連合会と連携して、標津町の食材を用いた料理作りや工作教室などを実施したり、しべつ未来塾と連携して、中学校3年生を対象に「いのちの教室」を実施している。
- 標津地区では、授業の一環として、中学生と乳児が触れ合い、ぬくもりを通していのちの大切さに気付くための取組を行っている。
- 川北地区では、ビザなし交流で来町したロシア人家族との様々な交流の機会を設け、北方領土学習や国際理解教育の成果につながっている。



標津地区コーディネーター 和田徳子氏（右）
川北地区コーディネーター 合田泰之氏（左）

3 事業の成果

- 地域人材のスキルを生かすことで、子どもたちの学びがより豊かになるとともに、地域の大人たちの自己有用感が高まる。また、活動を通じて支援者の人脈が広がることにより、支援内容の幅や可能性も拡大しつつある。
- 地域の伝統行事を効果的に学校支援として位置付けることで、地域と学校の連携がスムーズに行われている。一方、子どもたちを取り巻く今日的な問題にも地域の大人が積極的に関わることにより、教育に対する地域全体の意識が高まっている。

「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能の充実	■ 地域人材のスキルや人脈を熟知したコーディネーターを配置すること。
活動の継続、発展、推進に向けての取組	■ 子どもたちを取り巻く今日的な問題に対して、地域の大人が学習機会を提供すること。
地域の特色を生かした活動	■ 地域の伝統行事等、地域が協力して取り組みやすい内容を学校支援に活用すること。

こんな活動です

地域の資源や環境を活用し、町の課題解決を目指す取組

壮瞥町 胆振管内

【活動名】

壮瞥町地域学校協働本部

【関係する学校】

壮瞥小・壮瞥中・壮瞥高



壮瞥小「花交流」～壮瞥高校の生徒が先生です

行っている活動の区分

学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	子ども未来塾	放課後子供教室
○	○	—	—	—

地域学校協働活動に係る基本データ	学校支援活動	○	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
			1	0	12名,11団体	H29	有
	その他の教育支援活動	—	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
			—	—	—	—	—
	子ども未来塾	—	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
			—	—	—	—	—
	放課後子供教室	—	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
				—	—	—	—
			実施場所		学習支援	児童クラブとの連携	
	学校運営協議会生徒(コミュニティ・スクール)	○	導入日		委員数	児童生徒数	学級数
壮瞥小 H27.4.1			10	101	9		
壮瞥中 H27.4.1			※小中合同	64	3		
壮瞥高 H29.4.1			11	67	3		

1 活動の概要

■ 壮瞥町では、平成 29 年度に久保内小学校 (H31.3 休校) に、地域連携担当教員 (社会教育主事有資格者) が置かれたことを契機として、組織的な地域学校協働活動が展開されている。

■ 壮瞥小学校では、「壮小サポーター (略称: S・S)」が、「地域の子どもたちは地域で育てる」という当事者意識をもち、地域の資源や特性を活かした教育活動を支援するとともに、自らの生涯学習の場として活動を行うなど、地域の教育力向上に向けた取組の推進役となっている。

2 特徴的な活動内容

- 火山について学ぶ学習を、地域の方々の協力のもと、全校で取り組んでいる。壮瞥小学校では、一日防災学校を一日防災キャンプと並行して実施し、町全体の防災意識高揚に寄与している。また、壮瞥中学校では、地域環境と自己との関わりを考える学習に3年間取り組み、そのまとめとして、Jr.火山マイスターへ挑戦するなど、地域人材の育成に努めている。
- 地域課題に即したプロジェクト学習に取り組む壮瞥高校では、「剪定枝等を有効活用する研究」により作られた炭を、町の祭りに提供するなど、持続可能な農業の在り方や地方創生を意識した取組が推進されている。



地域コーディネーター
阿部 昌子 氏 (右から3人目)

3 事業の成果

- 壮瞥小学校の学校評価から
 - ① 「学校運営協議会や地域学校協働活動の内容を理解しているか」〔保護者アンケート〕
理解している・ほぼ理解している
H30 : 85.0% ⇒ R1 : **95.0 %**
 - ② 「保護者や地域と積極的に連携し、特色ある教育活動や地域性を生かした取組を行っているか」〔自治会長・地域住民アンケート〕
満足している・ほぼ満足している
R1 年度 1 学期 : 83.3% ⇒ 2 学期 : **86.4 %**

「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能の充実	■ 地域コーディネーターと町教委社会教育主事が常に情報を共有し、地域と学校それぞれにメリットのある取組を推進
活動の継続、発展、推進に向けての取組	■ 「やれることをやれる範囲で」をモットーに、ボランティア等に負担感を感じさせない取組になるよう工夫
地域の特色を生かした活動	■ 洞爺湖有珠山ジオパーク火山マイスターによるふるさと学習や、環境 NPO 法人による体験的な教育活動を展開

こんな活動です

神楽の舞を通して、生徒と住民が伝統と未来について考える取組

士別市 上川管内

【活動名】

地域の人から伝統芸能を学ぶ

【関係する学校】

多寄中・多寄小



閉校式典で披露した神楽の舞

行っている活動の区分							
学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	子ども未来塾	放課後子供教室			
○	○	○	—	○			
学校支援活動	○	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	
		1	6	27	H20	有	
その他の教育支援活動	○	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	
		0	3	—	H26	有	
子ども未来塾	—	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助	
		—	—	—	—	—	
放課後子供教室	○	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助	
		0	5	10	H22	有	
		実施場所	学習支援	児童クラブとの連携			
		多寄中学校	有	無			
地域学校協働活動に係る基本データ	○	導入日	委員数	児童生徒数	学級数		
		士別小	H31.4.1	15	325	18	
		士別南小	H31.4.1	11	325	22	
		士別中	H31.4.1	15	185	10	
		士別南中	H31.4.1	15	183	9	
		上士別小			25	3	
		上士別中	H30.4.1	15	16	4	
		多寄小			16	4	
		多寄中	H30.4.1	15	16	4	
		温根別小	H30.4.1	9	12	6	
糸魚小			42	7			
朝日中	H30.4.1	13	23	5			

1 活動の概要

■ 士別市多寄町の伝統芸能である「日向神代神楽」は、後継者不足等のため途絶えようとしていた。そこで、ふるさと教育の一環として、多寄中学校や多寄小学校が総合的な学習の時間等で取り組んだ。

■ 中学校の閉校にあたり、生徒と住民が神楽の舞を通して地域の歴史を学び、現在を知り、将来について考えることで、学校と地域、生徒と住民、または住民同士の新たなつながりが生まれた。

2 特徴的な活動内容

■ 音楽や保健体育、総合的な学習の時間等において取り組んだ。日向神代神楽愛好会会員が指導にあたり、士別市立博物館や士別市教委等も協力。生徒は地域の方から神楽を教わることで、神楽の魅力や地域の歴史を知るとともに、住民のふるさとに対する思いに気がついた。

■ 参観日や閉校式典等において、全校生徒が「日向神代神楽」を披露することで、生徒と住民が共にふるさと多寄について考えることができた。

■ 住民を対象とした地域づくり講演会や座談会に生徒が参加し、地域の大人とともに多寄の将来について話し合うことで、生徒と住民の新たなつながりができた。



愛好会会長：浮須 耕栄 氏

3 事業の成果

■ 学習終了後の生徒のアンケートでは「今あるものを未来に残したくても、他人の行動を待っているとその間に消えてしまう。他人まかせにせず、自ら積極的に行動してみんなを巻き込むと、未来に残せることを痛感した」との記述や、地域住民からは「子どもたちが、地域の歴史や地域の人を知るきっかけになってよかった」との声があるなど、生徒と住民が伝統と未来について考えることができた。

■ 愛好会の会員が増え（うち1名は中学生）、伝統芸能の継承という課題の解決に向け一歩進んだ。

「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能の充実	■ 日常のお互いの信頼関係のもとで、愛好会会員でもある教員が活動内容や日程等を調整
活動の継続、発展、推進に向けての取組	■ 伝統芸能の継承を目指して、次年度から小学校で本格的に神楽の学習を導入
地域の特色を生かした活動	■ 博学連携を推進している地域で、博物館学芸員も愛好会会員として取組を推進

子どもたちが地域を学び、考え、参画する取組

神恵内村 後志管内

【活動名】

神恵内村ふるさと学習

【関係する学校】

神恵内小・神恵内中



沖揚げ祭りにおける発表の様子

行っている活動の区分

学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	子ども未来塾	放課後子供教室
○	○	○	—	—

地域学校協働活動に係る基本データ	学校支援活動	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
		○	2	3	20	H20
その他の教育支援活動	○	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
		2	3	10	H20	無
子ども未来塾	—	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
		—	—	—	—	—
放課後子供教室	—	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
		—	—	—	—	—
		実施場所		学習支援	児童クラブとの連携	
学校運営協議会生徒（コミュニティ・スクール）	—	導入日		委員数	児童生徒数	学級数
		神恵内小 R2.4.1(予定)		—	35	6
		神恵内中 R2.4.1(予定)		—	15	3

1 活動の概要

■総合的な学習の時間を中心に、地域人材と連携しながら、子どもたちが地域の産業や伝統芸能に触れ、地域の特色やの魅力を学ぶ学習活動を進めている。

■地域の魅力発信や地域課題解決に取り組む団体と連携した「神恵内村活性化プロジェクト」を推進し、地域における人口減少を見据えた、今後の地域と自己の在り方を考える学習活動を取り入れている。

2 特徴的な活動内容

- 神恵内小学校では、子どもたちが地域の伝統芸能である沖揚げ音頭について学び、村の一大イベントである「沖揚げ祭り」において披露するなど、伝統芸能の継承につなげる取組を推進するほか、体験コーナーの出店や観光客へのアンケート調査などを行い、地域の祭りに参画している。
- 神恵内中学校では、地域の活性化に取り組む「神恵内村魅力創造研究会」の会員から村の将来を見据えた活動について学び、自分たちが地域のためにできることを考え、地域住民へ発信する課題解決学習に取り組むなど、次代を担う人材育成につなげる取組を進めている。



神恵内村魅力創造研究会による講話

3 事業の成果

- 地域の伝統芸能に触れる活動を継続的に行うことで、子どもたちが地域住民との関わりを深めるとともに、地域を理解し、郷土愛を育むことにつながっている。
- 子どもたちが、人口減少や高齢化など地域の現状を見つめ、今自分たちができることは何かを考え、課題解決に取り組む力を高めている。
- 学校と地域が目指す子どもの姿を共有し、計画的かつ継続的な教育活動を行うことで、学校、家庭、地域の良好な関係が構築されている。

「地域学校協働活動」のポイント

コーディネート機能の充実	■学校と教育委員会が連携し、地域人材を活用した教育活動の実施体制を確立
活動の継続、発展、推進に向けての取組	■地域行事への参画を教育課程に位置付け、より充実した学習活動になるよう工夫
地域の特色を生かした活動	■地域で活躍する人材と連携し、充実した体験活動や学習の場を構築

郷土芸能の継承とともに、地域を知り、地域を学ぶ取組

江差町 檜山管内

【活動名】

ふるさと江差発見学習

【関係する学校】

江差小・南が丘小・江差北小・江差中・江差北中



南が丘小における江差追分練習の様子

行っている活動の区分

学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	子ども未来塾	放課後子供教室
○	○	○	—	—

学校支援活動	○	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
		1	2	50	H23	無
その他の教育支援活動	—	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
		—	—	—	—	—
子ども未来塾	—	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
		—	—	—	—	—
放課後子供教室	—	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
		—	—	—	—	—
		実施場所		学習支援	児童クラブとの連携	
学校運営協議会生徒（コミュニティ・スクール）	○	導入日		委員数	児童生徒数	学級数
		江差北小・中 H29.10.30		14	111	13
		江差小 R1.10.9		14	143	11
		南が丘小 R1.10.18		15	69	10
		江差中 R1.10.17		15	111	8

地域学校協働活動に係る基本データ

1 活動の概要

■平成23年度から郷土芸能に関する内容の学習を町内各小・中学校の教育課程における理科や社会科、総合的な学習の時間に設定し、子どもたちが郷土の地域資源や文化財などの「本物」に触れる体験学習の機会としている。

■特に、総合的な学習の時間においては、地域で受け継がれてきた民謡や踊りなどの民俗芸能を学ぶことを通して、郷土の魅力を知り、郷土愛を育む取組を行っている。

2 特徴的な活動内容

■全校において、道指定無形民俗文化財である民謡「江差追分」の歴史や伝承について地域の師匠たちから学ぶとともに、発達段階に応じた歌唱指導を受けることを通して、江差追分の魅力や奥深さを体感している。

■各校においては、江差追分のほか、それぞれの地域・校区で継承されている「江差追分踊り」「江差沖揚音頭」「江差餅つき囃子」「江差鮫踊り」「江差土場鹿子舞」などについても各保存会の方々から指導を受け、学習を深めている。



江差北中における江差土場鹿子舞発表の様子

3 事業の成果

■本学習によって、唄や踊りの技能が向上するだけでなく、学習発表会や地域発表で学びの成果を披露することで、地域の一員としての自覚が芽生えてきている。なお、江差中学校の生徒は、毎年開かれている江差追分全国大会において、江差追分のアトラクションを行うなど、継承活動の一翼を担っている。

■本学習の経験を通して、郷土芸能の世界にさらに興味・関心を抱く子どもたちもおり、次世代の担い手育成の足がかりとなっている。

「地域学校協働活動」のポイント

コーディネートの充実	■各学校と講師となる個人・団体とのコーディネートは、町教委の学芸員が担っている。
活動の継続、発展、推進に向けての取組	■町の教育推進計画における文化財・博物館活動の施策として位置づけ、推進している。
地域の特色を生かした活動	■江差追分については、保育園や高等学校、看護学校でも授業が導入されており、地域全体で学ぶ体制を確立している。

ICTを活用し、個人に合わせた学習ができる「学紋塾」

紋別市 オホーツク管内

【活動名】

学紋塾（がくもんじゅく）

【関係する学校】

紋別中・潮見中・渚滑中



ICTを活用した学習の様子

行っている活動の区分				
学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	子ども未来塾	放課後子供教室
—	—	—	○	—

地域学校協働活動に係る基本データ	学校支援活動	—	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
		—	—	—	—	—	—
	その他の教育支援活動	—	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
		—	—	—	—	—	—
	子ども未来塾	○	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
		—	1人	2人	10~20人	H29	有
	放課後子供教室	—	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
		—	—	—	—	—	—
		実施場所		学習支援	児童クラブとの連携		
	学校運営協議会生徒（コミュニティ・スクール）	○	導入日		委員数	児童生徒数	学級数
上渚滑小学校 H31.4.1			8	13	3		
小向小学校 H31.4.1			7	7	3		
渚滑小学校・渚滑中学校 H31.4.1			10	小9 中21	小4 中5		

1 活動の概要

■中学生の希望者を対象として、市内の文化会館を会場に、毎週土曜日、午前（9：00～12：00）と午後（13：00～16：00）に、タブレットやスマートフォンなどのICTを活用して、一人一人に合った学習を行っている。

■「学習サポーター」が進捗状況を把握し、サポートをしているので、受講生がアドバイスを受れたり直接質問したりしながら学習することができる。

2 特徴的な活動内容

- リクルートの「スタディサプリ」の講師授業の動画を見るなどして、受講生は自分のペースで数学や国語の学習を行う。
- Wi-Fi環境が整えられているので、貸出用のタブレットだけではなく、個人所有のタブレットやスマートフォンも併用して学習することができる。
- 学習サポーターは個別アカウントにより受講生の学習状況を把握し、一人一人に合った学習内容を助言している。
- 個人学習だけでなく、数学の統一テストを実施し、受講生が到達度を認識できるようにしている。



学習サポーター（地域おこし協力隊）による支援の様子

3 事業の成果

- 年間を通して時間を決めた「勉強するための場」を提供しているため、受講者に学習習慣が定着してきている。昨年度は受講者全員が希望する高校に合格することができた。
- 地域おこし協力隊の働きかけにより、平日の勉強場所（子どもの居場所）づくりの必要性を共有し、福祉部局をはじめ市役所全体で取り組む契機となっている。

「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能の充実	■教育委員会職員がコーディネーターを務め、参加者の取りまとめ等効率的な運営を実現
活動の継続、発展、推進に向けての取組	■柔軟に勤務できる地域おこし協力隊を学習サポーターとし、運営スタッフを安定的に確保
地域の特色を生かした活動	■福祉部局と情報共有等を行い、生活困窮世帯への学習支援としても推進

地域住民と共に子どもたちの学びを支える子ども未来塾

大樹町 十勝管内

【活動名】

大樹子ども未来塾

【関係する学校】

大樹小学校



推進員の支援を受けて学習に取り組む参加者

行っている活動の区分

学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	子ども未来塾	放課後子供教室
○	○	○	○	—

地域学校協働活動に係る基本データ	学校支援活動	○	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
			1	2	15	H20	有
	その他の教育支援活動	○	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
			1	2	5	H20	有
	子ども未来塾	○	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
			1	5	30	H27	有
	放課後子供教室	—	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
			—	—	—	—	—
			実施場所		学習支援	児童クラブとの連携	
			—		—	—	
学校運営協議会生徒（コミュニティ・スクール）	○	導入日		委員数	児童生徒数	学級数	
		大樹小・大樹中 H31		23	401	25	

1 活動の概要

■大樹町では、小学生を対象に、毎週水曜日を原則として、「大樹子ども未来塾」を開催している。夏季・冬季の長期休業中は、それぞれ平日に3日間実施している。

■学習内容の定着やわかる・できる喜びを感じるため、宿題や推進員が用意したプリントを活用し、子どもたちの理解度に応じた学習サポートを行っている。

2 特徴的な活動内容

- 参加児童のことをよく知る地域住民が、子どもたちへ積極的に声かけを行い、安心して学べる環境をつくとともに、一人ひとりのつまづきに合った個に応じた支援を実施している。
- 子ども未来塾独自の漢字試験を行い、子どもたちの学習意欲と国語の基礎学力を高めている。また、日頃の学習成果を発揮する機会として、日本漢字能力検定や実用数学技能検定を実施している。
- 学習の時間以外に、読書や工作の活動を行うなど、幅広い学びの機会を子どもたちに提供している。



推進員 五十嵐 忠孝 氏

3 事業の成果

- 退職教員や地域おこし協力隊など幅広い地域住民が児童の学習を支援するとともに、その取組の様子を通信等で学校や町民に広く発信することにより、地域で子どもたちの学びを支える機運が醸成されてきている。
- 子ども未来塾にて、個に応じた支援を行うとともに、検定試験を受ける機会（漢検受験者 46 名、数検受験者 25 名）を設けることにより、家庭でも目標を持って自主的に学習する児童が増えるなど、本取組が子どもたちの学習習慣の確立につながっている。

「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能の充実	■統括的な推進員がコーディネーターとして、地域で活躍する人材と学校をつなぎ、効果的な運営を推進
活動の継続、発展、推進に向けての取組	■地域住民のサポートのほか、大学生ボランティアを積極的に活用し支援体制を強化
地域の特色を生かした活動	■小学校に隣接する生涯学習センターを会場とし、子どもたちが安心して通える環境で実施

こんな活動です

放課後児童クラブと連携する取組

北広島市 石狩管内

【活動名】
放課後子供教室

【関係する学校】
東部小学校



空手教室の様子

行っている活動の区分				
学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	子ども未来塾	放課後子供教室
—	—	○	—	○

地域学校協働活動に係る基本データ	学校支援活動	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	
		—	—	—	—	—	—
	その他の教育支援活動	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	
		—	—	—	—	—	
	子ども未来塾	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助	
		—	—	—	—	—	
	放課後子供教室	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助	
		○	1	9	70	令和元年度	○
		実施場所		学習支援	児童クラブとの連携		
		小学校の敷地内		○	○		
	学校運営協議会生徒（コミュニティ・スクール）	導入日		委員数	児童生徒数	学級数	
		H25.4.1	西部小	29	280	13	
		H25.4.1	西部中	小中合同	177	8	

1 活動の概要

■北広島市では平成 24 年度に大曲小、平成 28 年度に双葉小で放課後子供教室を開始した。東部小学校は上記 2 校での取組を踏まえ、本令和元年度より開始している。

■年間 20 回の活動内容を、5 月の会議で計画し、6 月から 2 月までの水曜日 14 時 30 分～15 時 30 分で実施している。

2 特徴的な活動内容

- 学校の敷地内で、放課後子供教室と放課後児童クラブが連携して活動している。児童クラブ内（1 部屋）と学校の余裕教室（2 教室）、体育館に放課後子供教室の活動場所を設けている。
- 活動場所の関係で学年を基本とし、① 1 年生② 2 年生③ 3, 4 年生④ 5, 6 年生の 4 グループに分かれて活動している。
- 学習活動や英語活動、体育活動の他に、空手教室が 2 回、手話教室が 1 回、北広島音頭（盆踊り教室）が 1 回プログラムに組み込まれている。



地域コーディネーター 藤崎 利博 氏

3 事業の成果

- 小学校敷地内に児童クラブが新設されたため、放課後子供教室終了後、児童クラブへの移動が安全になった。また、児童クラブ在籍の児童が放課後子供教室に参加する割合が他地区に比べて高くなった。（約 48%、他地区平均 30%）
- 平成 29 年度、30 年度に他地区で実施したアンケート結果や全国の実践事例集を参考にすることで、活動内容を精選し、児童やその保護者にとってより魅力的なプログラムを行うことができています。

「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能の充実	■コーディネーターが中心となり、プログラムの調整から実施までを担う児童クラブと連携した取組
活動の継続、発展、推進に向けての取組	■保護者アンケートを次年度の活動に反映するなど、利用者目線での活動を展開
地域の特色を生かした活動	■空手、手話など、地域人材を活用した活動 ■同一敷地内に児童クラブ

こんな活動です

地域の教育資源を活用した創意ある取組

礼文町 宗谷管内

【活動名】

礼文町放課後子供教室ジュニアスクール

【関係する学校】

礼文小・香深井小・船泊小



「遺跡発掘体験」の様子

行っている活動の区分

学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	子ども未来塾	放課後子供教室
○	○	—	—	○

学校支援活動	○	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
		1	3	0	H19	○
その他の教育支援活動	—	統括的な推進員数	推進員数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助
		—	—	—	—	—
子ども未来塾	—	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
		—	—	—	—	—
放課後子供教室	○	統括的な推進員数	推進員数	子どもの平均参加人数	開始年度	国庫補助
		1	7	15	H19	○
実施場所				学習支援	児童クラブとの連携	
主に小学校				有	無	
導入日				委員数	児童生徒数	学級数
学校運営協議会生徒（コミュニティ・スクール）						

地域学校協働活動に係る基本データ

1 活動の概要

■礼文町では、平成19年から町内の小学生を対象に「礼文町放課後子供教室ジュニアスクール」を実施しており、教育委員会職員がコーディネーター役を担い、取組を推進している。

■運営者となる協働活動推進員自らが、指導者としての役割や安全管理、子どもとの接し方について研修を深め、子どもたちの学習や体験活動を支援している。

2 特徴的な活動内容

- 子ども一人一人の学習進度に合わせた学習支援のほか、地域の物的資源を活用した「遺跡発掘体験」や「町内ウォークラリー」など、地域の歴史や文化を体験的に学ぶ活動を行っている。
- 子どもたちの生活習慣の確立に向けて、挨拶や後片付けをしっかりと行うことや、持ち物を整理整頓することなどを示した「ジュニアスクールのお約束」を作成し、指導の徹底と安全で楽しい教室づくりに努めている。
- 保護者等との連携を図った活動の推進に向けて「ジュニアスクール通信」を作成し、家庭や地域に配付するとともに、「連絡帳」を活用し、家庭との情報共有を図っている。



研修中の協働活動推進員

3 事業の成果

- 自分の計画に基づいて学習に取り組む姿勢が、学習習慣の定着につながっている。
- 地域の人的・物的資源を有効活用することで、学校で取り組むことが難しい体験活動や、地域住民、異学年との豊かな交流が子どもたちの成長につながっている。
- 様々な活動を通じた子どもたちの成長が協働活動推進員のやりがいとなっている。

「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能の充実	■教育委員会がコーディネーターとして、地域と学校の連絡・調整等を担う。
活動の継続、発展、推進に向けての取組	■長期休業中に、地域に帰省している大学生を協働活動サポーターとして活用
地域の特色を生かした活動	■地域の人的資源を有効に活用するため、地域のサークル団体や企業等と連携



～平成 29 年度～



～平成 30 年度～

令和元年度「地域学校協働活動」実践事例集

発行 令和2年3月
北海道教育委員会

問合せ 〒060-8544
札幌市中央区北3条西7丁目
北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ
TEL 011-204-5753
FAX 011-232-1072
URL <http://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/kcs/index2.htm>